

令和7年度 白楊小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号:22003

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
これまでの成果	課題
◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている児童の割合が高く、全国平均と同等である。 ◇札幌市の共通指標「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある」という項目において、9割弱の児童が肯定的に回答し、他者と協働しながら学ぶ価値を感じている傾向が見られた。 ◇学校評価の児童アンケート「学習中、見通しをもって取り組むことができている」という項目において、9割の児童が「できている」と回答し、前期から後期にかけて5%程度の増加が見られた。	◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から、「自分には、よいところがあると思う」と感じている児童の割合が全国平均よりも1割程度低い。 ◇学校評価の児童アンケート「学習を通して、自分の成長に気付いている」という項目において、2割弱の児童が「できていない」と回答している。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
◇札幌市の共通指標「人の役に立ててうれしいと感じることがある」という項目については、9割以上の児童が肯定的な回答している。異学年交流や各行事に取り組む中で、友達や他学年のよさを見付けて伝え合うという活動を大切にしてきた成果である。その一方で、「自分が必要とされていると感じる」という項目については、3割弱の児童が否定的な回答をしており、自分のよさや可能性を認識する「自己承認」や、「他者からの承認」を高める教師の関わりや子ども同士の前向きな相互評価の機会づくりを、今まで以上に大切にいく必要があるといえる。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分事として学びを進め、自らの成長に気付く力

	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	◇研究副主題「子どもが学びをつくる授業」を目指して <ul style="list-style-type: none"> ・単元や題材というスパンを大切にした授業の構築 ・イントロダクション、個別探究、協働探究、リフレクションの各過程における手立ての明確化 <ul style="list-style-type: none"> → 特に、本校児童の課題である「学習を通しての成長への気付き」を生むために、単元最後の自己評価の充実※を図る <ul style="list-style-type: none"> ※自ら学び進めた自信や達成感などを数値などで視覚化 など ・ブロック部会の設置 → 日常的な授業改善 ・ICTの効果的な活用 	◇全校共通の生活のめあて「はくよう」の取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> は…はっきりあいさつ心から よ…よく考えて挑戦し く…クラスのみんで協力だ ま…動こう進んで自分から ◇よりよい学校生活を目指した各委員会の主体的な活動 <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な活動（放送や図書貸し出しなど） ・啓発活動（健康や安全な廊下歩行に関する発信など） ・イベント活動（運動や異学年交流の推進など） ◇子ども自身が生活を振り返る場の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・全校共通の振り返りシート（年4回）

〈本プログラムの実行に向けて〉

